

様式 1 公表されるべき事項

国立大学法人鹿屋体育大学の役員報酬・給与等について

I 役員報酬等について

1 役員報酬についての基本方針に関する事項

① 平成21年度における役員報酬についての業績反映のさせ方

国立大学法人鹿屋体育大学役員給与規則により、勤勉手当の額については、国立大学法人評価委員会が行う業績評価の結果等を勘案し、学長がその者の職務実績に応じ、国立大学法人鹿屋体育大学経営協議会の議を経て決定する。

② 役員報酬基準の改定内容

法人の長

人事院勧告に伴う給与法改正に準拠し次のとおり改正した。6月期から期末特別手当を、期末手当と勤勉手当に改編し、概ね0.15月分凍結し、12月期は、6月期の凍結分を充当し、さらに、概ね0.10月分を引き下げた。本給月額を平均0.3%減額した。

理事

同上

理事(非常勤)

改定なし

監事

該当者なし

監事(非常勤)

改定なし

2 役員の報酬等の支給状況

役名	平成21年度年間報酬等の総額				就任・退任の状況		前職
	報酬(給与)	賞与	その他(内容)	就任	退任		
法人の長	千円 16,232	千円 11,916	千円 4,316	千円 0 ()			
A理事	千円 13,379	千円 8,696	千円 3,319	千円 523 (調整手当) 24 (通勤手当) 816 (単身赴任手当)		3月30日	◇
B理事	千円 11,939	千円 8,728	千円 3,162	千円 49 (通勤手当)			
C理事 (非常勤)	千円 1,665	千円 1,665	千円 0	千円 0			
A監事 (非常勤)	千円 1,118	千円 1,118	千円 0	千円 0 ()			
B監事 (非常勤)	千円 1,118	千円 1,118	千円 0	千円 0 ()			

注1:「その他」欄には手当等が支給されている場合は、例えば通勤手当の総額を記入する。

注2:「前職」欄には、役員の前職の種類別に以下の記号を付す。

退職公務員「*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「*※」、該当がない場合は空欄。

注3:「調整手当」とは、民間における賃金、物価及び生計費が特に高い地域に所在する国の機関等に常勤職員として6箇月以上勤務し、引き続き本学の役員となった者に対して支給されている地域手当と、広域異動を行った者を支給対象とする広域異動手当である。

注4:総額、各内訳について千円未満切り捨てのため、総額と各内訳の合計額は必ずしも一致しない。

3 役員の退職手当の支給状況(平成21年度中に退職手当を支給された退職者の状況)

区分	支給額(総額)	法人での在職期間	退職年月日	業績勘案率	摘要	前職
法人の長	千円	年 月			該当者なし	
理事	千円	年 月			該当者なし	
監事	千円	年 月			該当者なし	

注1:「摘要」欄には、具体的な業績の評価等、退職手当支給額の決定に至った事由を記入する。

注2:「前職」欄には、退職者の役員時の前職の種類別に以下の記号を付す。

退職公務員「*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「*※」、該当がない場合は空欄。

II 職員給与について

1 職員給与についての基本方針に関する事項

① 人件費管理の基本方針

中期目標に掲げる人事の適正化に関する目標を達成するために、人的資源の効果的な活用を図りつつ、人員の計画的・効率的な配置を行い、総人件費改革の実行計画を踏まえた人件費の削減の取組み及び中期計画目標期間中の人件費の見積りの範囲内での人件費の管理を行っている。

② 職員給与決定の基本方針

ア 給与水準の決定に際しての考慮事項とその考え方

国家公務員の給与水準を十分に考慮し、国家公務員の例に準じた措置を講じている。

イ 職員の発揮した能率又は職員の勤務成績の給与への反映方法についての考え方

職務実績・成績を昇給、特別昇給、昇格及び勤勉手当の成績率に反映させている。

[能率、勤務成績が反映される給与の内容]

給与種目	制度の内容
賞与: 勤勉手当 (査定分)	基準日(6月1日・12月1日)以前6箇月間の期間における勤務成績に応じて決定される支給割合(成績率)に基づき支給される。
本給月額 (昇給)	1月1日の昇給日前1年間の勤務を評価し、勤務成績に応じて昇給させることができる。
本給月額 (昇格)	勤務成績が良好で、かつ昇格基準に達している場合、その者の資格に応じて、1級上位の級に昇格させることができる。

ウ 平成21年度における給与制度の主な改正点

人事院勧告に伴う給与法改正に準拠し次のとおり改正した。
6月期の期末・勤勉手当を概ね0.20月分凍結し、12月期は、6月期の凍結分を充当し、さらに、概ね0.15月分を引き下げた。また、本給月額を平均0.2%減額し、自宅に係る住居手当を廃止した。

2 職員給与の支給状況

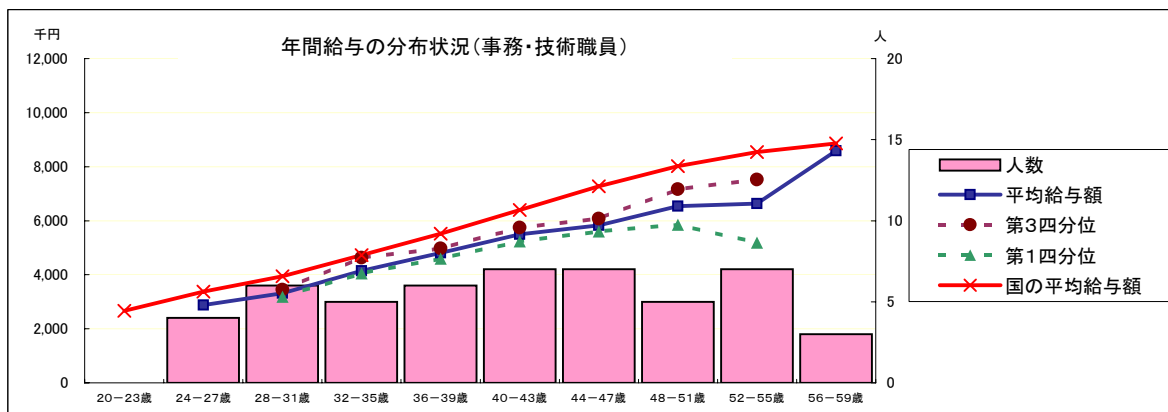
① 職種別支給状況

区分	人員	平均年齢	平成21年度の年間給与額(平均)			
			総額	うち所定内		うち賞与
				うち通勤手当		
常勤職員	104人	45.5歳	千円 6,743	千円 4,965	千円 69	千円 1,778
事務・技術	50人	41.9歳	千円 5,368	千円 4,014	千円 64	千円 1,354
教育職種 (大学教員)	53人	48.6歳	千円 8,061	千円 5,877	千円 75	千円 2,184
医療職種 (病院医師)	該当者なし		千円 4	千円	千円	千円
医療職種 (病院看護師)	該当者なし		千円	千円	千円	千円
その他医療職種 (看護師)	1人		千円	千円	千円	千円
在外職員	該当者なし		千円	千円	千円	千円
任期付職員	該当者なし		千円	千円	千円	千円
事務・技術			千円	千円	千円	千円
教育職種 (大学教員)			千円	千円	千円	千円
医療職種 (病院医師)			千円	千円	千円	千円
医療職種 (病院看護師)			千円	千円	千円	千円
再任用職員	該当者なし		千円	千円	千円	千円
事務・技術			千円	千円	千円	千円
教育職種 (大学教員)			千円	千円	千円	千円
医療職種 (病院医師)			千円	千円	千円	千円
医療職種 (病院看護師)			千円	千円	千円	千円
非常勤職員	該当者なし		千円	千円	千円	千円
事務・技術			千円	千円	千円	千円
教育職種 (大学教員)			千円	千円	千円	千円
医療職種 (病院医師)			千円	千円	千円	千円
医療職種 (病院看護師)			千円	千円	千円	千円

注:常勤職員については、在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。

注:常勤職員「その他医療職種(看護師)」については、該当者が1人であるため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、平均年齢及び年間給与の平均額は表示していない。

② 年間給与の分布状況(事務・技術職員/教育職員(大学教員))[在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。以下、⑤まで同じ。]



注1:①の年間給与額から通勤手当を除いた状況である。以下、⑤まで同じ。

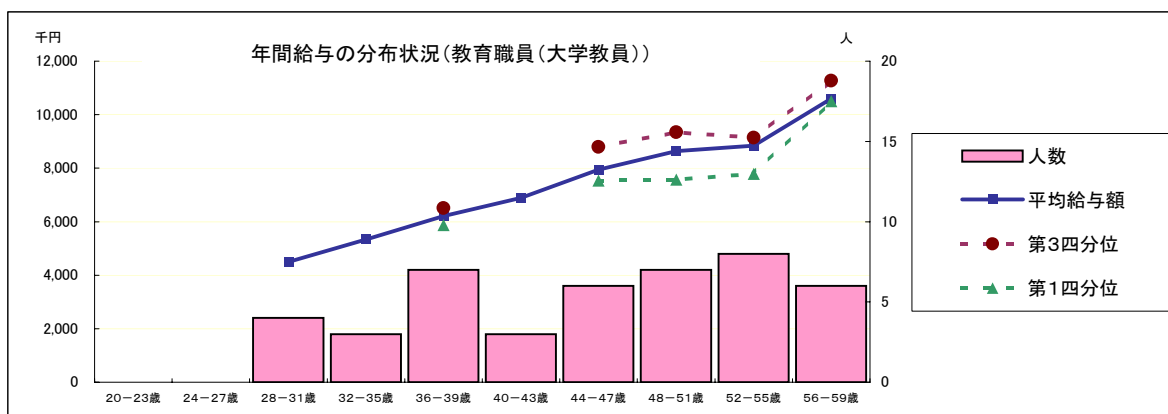
注2:20～23歳における該当者なし

注3:24～27歳、56～59歳における該当者は4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、年間給与額の第1・第3分位については表示していない。

(事務・技術職員)

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	四分位		平均	四分位	
			第1分位	第3分位		第1分位	第3分位
課長	3	54.2	-	-	8,208	-	-
副課長(課長補佐相当職)	4	52.3	-	-	7,233	-	-
係長	22	45.4	5,363	5,985	5,716	5,985	5,985
主任	6	36.0	4,488	4,664	4,563	4,664	4,664
係員	14	32.2	3,004	3,546	3,453	3,546	3,546

注1:課長、副課長(課長補佐相当職)における該当者は4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、年間給与額の第1・第3分位については表示していない。



注1:20～23歳、24～27歳における該当者なし

注2:28～31歳、32～35歳、40～43歳における該当者は4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、年間給与額の第1・第3分位については表示していない。

(教育職員(大学教員))

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	四分位		平均	四分位	
			第1分位	第3分位		第1分位	第3分位
教授	25	55.1	8,799	10,503	9,613	10,503	10,503
准教授	12	47.7	7,196	7,784	7,498	7,784	7,784
講師	9	43.7	6,087	6,574	6,444	6,574	6,574
助教	7	32.9	4,480	5,696	4,995	5,696	5,696

③ 職級別在職状況等(平成22年4月1日現在)(事務・技術職員／教育職員(大学教員))

(事務・技術職員)

区分	計	9級	8級	7級	6級	5級	4級	3級	2級	1級
標準的な職位		事務局長	事務局長	課長	課長	課長 副課長	副課長 係長	係長 主任	主任 係員	係員
人員 (割合)	50	該当者なし (%)	1 (2.0%)	該当者なし (%)	3 (6.0%)	該当者なし (%)	5 (10.0%)	25 (50.0%)	7 (14.0%)	9 (18.0%)
年齢(最高 ～最低)			～		59～50		59～49	54～35	53～29	32～25
所定内給 与年額(最高 ～最低)			～		6,394～6,023		5,682～5,215	4,979～3,370	3,891～2,405	2,750～2,082
年間給与 額(最高～ 最低)			～		8,473～8,072		7,520～6,974	6,733～4,599	5,183～3,235	3,546～2,803

注:8級における該当者が1人のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、「年齢(最高～最低)」以下の事項について記載しない。

(教育職員(大学教員))

区分	計	5級	4級	3級	2級	1級
標準的な職位		教授	准教授	講師	助教	助手
人員 (割合)	53	25 (47.2%)	12 (22.6%)	9 (17.0%)	7 (13.2%)	該当者なし (%)
年齢(最高 ～最低)		64～44	60～37	62～30	42～29	
所定内給 与年額(最高 ～最低)		8,156～5,807	6,166～4,314	6,025～3,642	4,304～3,033	
年間給与 額(最高～ 最低)		11,357～8,024	8,445～5,869	8,242～4,878	5,805～4,107	

④ 賞与(平成21年度)における査定部分の比率(事務・技術職員／教育職員(大学教員))

(事務・技術職員)

区分	夏季(6月)	冬季(12月)	計	
管理職員	一律支給分(期末相当)	%	%	%
	査定支給分(平均)	63.5	67.2	65.5
	最高～最低	42.7～32.7	42.4～28.8	42.5～30.6
一般職員	一律支給分(期末相当)	%	%	%
	査定支給分(平均)	65.1	68.9	67.1
	最高～最低	38.1～32.2	35.8～27.8	35.0～30.1

(教育職員(大学教員))

区分	夏季(6月)	冬季(12月)	計	
管理職員	一律支給分(期末相当)	%	%	%
	査定支給分(平均)	%	%	%
	最高～最低	%	%	%
一般職員	一律支給分(期末相当)	%	%	%
	査定支給分(平均)	64.6	68.7	66.8
	最高～最低	38.1～33.1	34.9～29.2	36.4～31.1

⑤ 職員と国家公務員及び他の国立大学法人等との給与水準(年額)の比較指標(事務・技術職員／教育職員(大学教員))

(事務・技術職員)

対国家公務員(行政職(一))

83.9

対他の国立大学法人等

96.5

(教育職員(大学教員))

対他の国立大学法人等

92.0

注：当法人の年齢別人員構成をウエイトに用い、当法人の給与を国の給与水準(「対他の国立大学法人等」においては、すべての国立大学法人等を一つの法人とみなした場合の給与水準)に置き換えた場合の給与水準を100として、法人が現に支給している給与費から算出される指数をいい、人事院において算出

給与水準の比較指標について参考となる事項

○事務・技術職員

項目	内容										
指数の状況	<table border="1"> <tr> <td>対国家公務員</td> <td>83.9%</td> </tr> <tr> <td>参考</td> <td> <table border="1"> <tr> <td>地域勘案</td> <td>91.0</td> </tr> <tr> <td>学歴勘案</td> <td>83.9</td> </tr> <tr> <td>地域・学歴勘案</td> <td>90.5</td> </tr> </table> </td> </tr> </table>	対国家公務員	83.9%	参考	<table border="1"> <tr> <td>地域勘案</td> <td>91.0</td> </tr> <tr> <td>学歴勘案</td> <td>83.9</td> </tr> <tr> <td>地域・学歴勘案</td> <td>90.5</td> </tr> </table>	地域勘案	91.0	学歴勘案	83.9	地域・学歴勘案	90.5
対国家公務員	83.9%										
参考	<table border="1"> <tr> <td>地域勘案</td> <td>91.0</td> </tr> <tr> <td>学歴勘案</td> <td>83.9</td> </tr> <tr> <td>地域・学歴勘案</td> <td>90.5</td> </tr> </table>	地域勘案	91.0	学歴勘案	83.9	地域・学歴勘案	90.5				
地域勘案	91.0										
学歴勘案	83.9										
地域・学歴勘案	90.5										
給与水準の適切性の検証	<p>【国からの財政支出について】 支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 68.8% (国からの財政支出額 1,417百万円、支出予算の総額 2,061百万円：平成21年度予算)</p> <p>【検証結果】 本学は体育系単科の大学であり、体育実技の指導者養成を使命の一つとしている大学であるという特殊性から、自然科学系の研究大学と比して外部資金の獲得が難しいのが現状である。 外部資金の獲得については、科学研究費補助金や国が行うプロジェクト等に対して積極的に申請を行っているが、今後とも引き続き努力するとともに、効率的な運営を行い、支出の削減に努める。</p> <p>【累積欠損額について】 累積欠損額0円(平成20年度決算)</p>										
講ずる措置	<p>本学の給与水準は国家公務員の給与水準を十分考慮し、国家公務員の例に準じた措置を講じているが、加えて「行政改革の重要方針」(H17.12.24閣議決定)において示された総人件費改革の実行計画を踏まえ、平成21年度の年度計画においては、概ね1%の人件費削減を行った。中期計画においても平成18年度から平成23年度までの間に概ね5%の人件費削減を図るものである。</p>										

○教育職員(大学教員)

教育職員(大学教員)と国家公務員との給与水準の比較指標

90.1

(注) 上記比較指標は、法人化前の国の教育職(一)と行政職(一)の年収比率を基礎に、平成21年度の教育職員(大学教員)と国の行政職(一)の年収比率を比較して算出した指数である。

III 総人件費について

区 分	当年度 (平成21年度)	前年度 (平成20年度)	比較増△減	中期目標期間開始時(平成16年度)からの増△減
	千円	千円	千円 (%)	千円 (%)
給与、報酬等支給総額 (A)	901,072	951,336	△ 50,264 (△5.3)	△209,807 (△18.9)
退職手当支給額 (B)	46,824	54,494	△ 7,670 (△14.1)	△32,163 (△40.7)
非常勤役職員等給与 (C)	81,818	78,923	2,895 (3.7)	79,495 (3422.1)
福利厚生費 (D)	110,606	120,526	△ 9,920 (△8.2)	△200,079 (△15.4)
最広義人件費 (A+B+C+D)	1,140,320	1,205,279	△ 64,959 (△5.4)	△362,554 (△13.8)

注：平成21年度の「非常勤役職員等給与」においては、寄附金、受託研究費その他競争的資金等により雇用される職員に係る費用及び人材派遣契約に係る費用等を含んでいるため、財務諸表附属明細書の「17 役員及び教職員の給与の明細」における非常勤の合計額と一致しない。

総人件費について参考となる事項

①総人件費の前年度との比較について

「給与、報酬等支給総額」：給与制度の改定並びに職員数の抑制を図った結果、前年度に比較して5.3%の減となった。
「最広義人件費」：平成21年度においても引き続き中期計画における総人件費改革の推進を図った結果、前年度に比較して5.4%の減となった。

②「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」(平成18年法律第47号)及び「行政改革の重要方針」(平成17年12月24日閣議決定)による人件費削減の取組状況について

i) 主務大臣が中期目標において示した人件費削減の取組について

「行政改革の重要方針」(平成17年12月24日閣議決定)において示された総人件費改革の実行計画を踏まえ、人件費削減の取組を行う。

ii) 中期計画において設定した削減目標、国家公務員の給与構造改革を踏まえた見直しの方針について

総人件費改革の実行計画を踏まえ、平成23年度までに概ね5%の人件費の削減を図る。

iii) 人件費削減の取組状況について

平成21年度までの人件費削減率：△20.4%

平成17年度「給与、報酬等支給総額」：1,131,653千円

平成21年度「給与、報酬等支給総額」：901,072千円

総人件費改革の取組状況

年 度	基準年度 (平成17 年度)	平成18 年度	平成19 年度	平成20 年度	平成21 年度
給与、報酬等支給総額 (千円)	1,131,653	994,351	958,077	951,336	901,072
人件費削減率 (%)		△ 12.1	△ 15.3	△ 15.9	△20.4
人件費削減率(補正值) (%)		△ 12.1	△ 16.0	△ 16.6	△18.7

【注1】：「人件費削減率(補正值)」とは、「行政改革の重要方針」(平成17年12月24日閣議決定)による削減率である。人事院勧告を踏まえた官民の給与較差に基づく給与改定分を除いた削減率である。

【注2】：基準年度(平成17年度)の給与、報酬等支給総額は、法人移行時の人件費予算相当額を基礎に算出した平成17年度人件費予算相当額である。

IV 法人が必要と認める事項 特になし